



オオキツネノカミソリ「妖艶」に

～ 区立牧野記念庭園で見ごろを迎えています～

見ごろ	オオキツネノカミソリ: 8月上旬 (写真は7月30日に撮影)
ところ	区立牧野記念庭園(東大泉6-34-4)

交通機関: 西武池袋線「大泉学園駅」
南口下車、徒歩5分

東大泉にある区立牧野記念庭園(東大泉6-34-4)では、朱色の花を咲かせるオオキツネノカミソリが見ごろを迎えている。花ことばは「妖艶」。オオキツネノカミソリはヒガンバナ科の多年草で、**牧野富太郎博士が命名した植物**。名前の由来は、花に先立ち春に出る細長い葉をカミソリ(西洋カミソリ)に見立てて、「狐の剃刀」の名がついた。



【オオキツネノカミソリ1】

写真撮影に訪れた30日は、5株ほどが花をつけており、つぼみのもも見られた。庭園内の植物を管理する花と

みどりの相談所によると、8月上旬が一番の見ごろとのこと。庭園は午前9時～午後5時。入園無料。(火曜・年末年始休館。) 駐車場なし。

【オオキツネノカミソリ】

オオキツネノカミソリは、キツネノカミソリより花が大きく、長く突き出るおしべが特徴。長さが30～40cmの花茎に4～6個の朱色の花をつける。本州の関東以南と九州に分布する。例年8月中旬まで見ることができ、**今が一番の見ごろとなっている。**



【オオキツネノカミソリ2】

【牧野記念庭園(東大泉6-34-4)】

世界的に著名な植物学者である牧野富太郎博士(1862年～1957年)が、大正15年(1926年)から昭和32年(1957年)に死去するまでの約30年間住んだ居宅と庭の跡地。昭和33年(1958年)に区立庭園として一般公開。

園内には牧野博士が発見し、妻の名をとって命名したスエコザサをはじめ、日本で最大級のセンダイヤ(サクラ)、ヘラノキ、チチブフジなど300種類以上の植物が成育している。記念館では博士が採集した植物標本や、著書、顕微鏡などを展示している。また博士の書斎が覆屋内に保存、公開されている。

牧野博士は、土佐国(現高知県)生まれ。19歳で上京し、東京帝国大学の助手・講師を勤め、明治22年(1889年)日本人として初めてヤマトグサに学名を与え、1,000種の新種、1,500種の新変種を命名し、40万点の標本を採集した。著書に「牧野日本植物図鑑」など多数。文化勲章受章、名誉都民・名誉区民などに顕彰されている。

平成21年2月に国・登録記念物(名勝地関係・遺跡関係)となった。

【問い合わせ】

環境まちづくり事業本部 環境部 みどり推進課 花とみどりの相談所 電話03-3976-9402